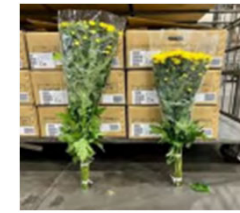


フラワー需給マッチング協議会（全国）

協議会構成団体：JA全農秋田 JA全農岩手 JA全農長野 JA静岡経済連 JAあいち経済連 JA愛知みなみ JA香川県 JA全農ふくれん JA全農おおい JA熊本経済連 沖永良部花き専門農協 JAおきなわ 沖縄県花卉園芸農協 大田花き 旭川生花 とうほくフラワーサポート 新花 宇都宮花き 南関東花き 名古屋花き 他 全41団体（生産地・流通・販売）

対象品目

国産切花全般



通常vsスマート規格スプレーマム



スマート規格のトルコギキョウ・スターチスなど

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1. 花き流通の物流効率化の取組

花き流通において労働時間や人件費を縮減し、効率的な物流方法を構築するために、切り花品目において台車輸送・パレット輸送を行った。箱の形状や出荷品目数、出荷場所設備などの条件の異なる産地を選択し、出荷場および市場（消費地荷受）での労働時間、および人件費の縮減率を平積み（慣行積載方法）輸送と比較実証。

台車輸送、パレット輸送により、運行業務の一部（トラックへの積込時間、市場での荷下ろし時間）の労働時間および人件費を約7割縮減することができた。しかし、課題点も同時に発見される結果となった。

・台車輸送

【メリット】トータルの運行時間および人件費を平積みに対して平均13.4%縮減する結果となった。

【デメリット】プラットフォームやトラックの台車輸送対応型（パワーゲートの装備）がなければ作業が滞る。同型の台車を共有し台車を循環させる必要がある（車輛の次の運行スケジュールなどの問題）。

・パレット輸送

【メリット】トータルの運行時間および人件費を平積みに対して平均6.2%縮減する結果となった。

【デメリット】フォークリフトが必要。1 wayの場合は別途費用がかかる。箱の耐荷重など積載上限や、荷崩れ防止のための補助資材や出荷準備作業増。



産地から台車輸送



市場でのパレット荷受け

2. スマート規格の実店舗試験販売

当協議会の推進課題として、スマートフラワーの普及拡大がある。実際に花きを購入する生活者のスマート規格に対する意識を調査すべく、量販店にご協力いただき、実店舗での試験販売を行った。40 cm束（スマート規格）と60 cm束を用意し（花の内容や価格などは同一）、3店舗で試験販売した。

40 cm束と60 cm束を合わせた販売のうち、40 cm束の販売は45%となり、十分に商品価値が認められた。お客様からは、サイズがちょうど良いという反応があった。ただし環境やSDGsを意識して購入した方はそれほどいなかった。一方、課題も挙げられた。店頭では商品が在庫となった場合、切り戻しを行う。40cmの場合、切り戻すとさらに短くなってしまうことから、店舗側では売れ行きや売値を維持することができるのか、という課題が残った。



店頭販売試験の様子

< 今後の取組予定 >

・物流の効率化については、台車、パレット輸送を行うことで資材への積み付け付帯作業の発生、積載効率の低下などが課題として挙げられた。その分の負担増を受益者でもつのか、関係者で案分するのかなど、どのように転嫁吸収していくのかをさらなる実証を経て協議する必要がある。

・スマート規格については、店舗側の課題を解消していく取組が必要だ。また、さらなる普及を目指し、生活者にはスマート規格＝SDGsという認識を浸透させるため積極的な広報活動を行いたい。

全国鉢物類振興プロジェクト協議会（全国）

協議会構成団体：鴻巣花き株式会社、株式会社フラワーオークションジャパン、株式会社東京砦花き園芸市場、株式会社青梅インターフロー、株式会社するが花き卸売市場、豊明花き株式会社、株式会社JF兵庫県生花、株式会社花満、九州日観植物株式会社、仙台生花株式会社、北海道植物株式会社、株式会社金沢花市場、西日本花き株式会社、茨城花き流通センター農業協同組合、岐阜花き流通センター農業協同組合、一般社団法人日本花き生産協会鉢物部会、日本洋蘭生産協会

対象品目

鉢物類：
観葉植物、
洋蘭、
花苗等



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的普及活動

当協議会では、鉢物類の需要拡大を目的とし、鉢物類の効能に着目したネイチャーブレイクの実証を行ってきた。
令和5年度は、鉢物類の需要拡大、屋内緑化の効果的な普及方法の実証として、図書館の来場者を対象に、館内利用時にミニ観葉植物を貸し出し、ネイチャーブレイクのモニター調査を行った。



- ・6月22日～8月15日の間で、10歳未満～80歳までの39名（延べ45名）がアンケートに回答。利用者は、10歳代が最も多く（8名）、中学生や高校生の関心も高かった。男女別では、女性8割、男性2割だった。
- ・ミニ観葉植物を借りた人の図書館の利用目的は、読書53%、学習31%だった。
- ・選んだ植物は、アンズリウム赤9名、アンズリウム白6名、オキシカルジウム4名、トラデスカンチア3名、コチョウラン白3名、コチョウラン桃2名、コチョウラン薄桃・コチョウラン橙・フィロデンドロン赤・ディフェンバキアは1名、クロトン・ドラセナコンシンネは0名だった。
- ・花のある植物では、花に丸みがあり、シンプルな形のアンズリウムが好まれた。コチョウランは花色により差が見られた。重量感のあるクロトンの濃い緑・黄・赤の葉、緊張感を与えるドラセナ、コンシンネの細く尖った葉は避けられた。花の色・形が目立つコチョウランや葉色が目立つクロトンは、読書や学習を目的とした人にとって、気が散りやすく、避けられる傾向があった可能性がある。
- ・図書館以外でネイチャーブレイクをしてみたい場所（複数回答可）では、自宅が69%と圧倒的に多く、学校22%、勤務先20%が続いた。こうした回答者は、屋内植物に興味を持っており、消費や普及を応援してくれる人と考えられるため、屋内植物の消費拡大をPRする場所は、ホームセンターや園芸店等に限らないこと、図書館のような静かな場所でストレス軽減効果を体験してもらうことが、自宅・学校・勤務先等における屋内植物の需要開拓につながる可能性を示している。
- ・自由意見では、勉強がはかどった、リラックスできた、いつもより長くいた等の感想に加え、購入できるお店の紹介も一緒にしてほしい、鉢も一緒に販売してほしい、引き続きの植物の貸出を続けてほしい等との意見もあった。

< 今後の取組予定 >

・令和6年度からは、全国各地で、当協議会の会員である花き卸売会社が図書館や生涯学習センター等と連携してネイチャーブレイクや屋内緑化に取り組むこととしている。

花き全国技術実証2023協議会（全国）

協議会構成団体：農研機構野菜花き研究部門、株式会社大田花き、クリザール・ジャパン株式会社、一般財団法人日本気象協会、静岡県農林技術研究所、兵庫県立農林水産技術総合センター、千葉県農林総合研究センター、鹿児島県農業開発総合センター、長崎県農林技術開発センター秋田県農業試験場、奈良県農業研究開発センター、高知県、宮崎県総合農業試験場

対象品目

切り花：
輪ぎく、小ぎく、スプレーマム、
トルコギキョウ、ダリア、リンドウ、ハボタン、
その他の切り花類



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

【流通の効率化と安定供給に資する低温保管技術実証】
流通の効率化に資する目的で、盆、年末の特異需要期を主な対象に低温保管技術実証】を産地と流通事業者の連携の下、行った。

2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

【卸売市場データと気象データ等を活用した需給動向分析】
花き卸売市場事業者よりデータ提供を受け、品目・品種別の過去5年程度の取引動向と気象データの相関性を検証した。

3. 国と試験研究機関主導による全国レベルでの技術実証

①【データ駆動型花き類効率計画生産技術実証】

・DVRモデル（※）を活用したトルコギキョウ、カーネーション計画・多収生産実証を行った。

※DVRモデル：単位時間当たりの発育量を示す発育速度DVR(developmental rate)とその積算値である発育指数DVI(developmental index)で構成される。DVIは発育ステージを表す数値で、開花、展葉といった各ステージのDVIを便宜的に、0、1等の数値として定義し、その間を連続的に変動する。DVRモデルは実際の生物現象に対しフレキシブルに対応できる。

②【気候変動に対応したキク類効率計画生産技術実証】

・夏秋期および年末需要期を対象に最重要品目のキク類（輪ギク、ディスプレイマム、小ギク）計画生産実証を行った。

③【生育予測に基づく露地花き需給安定化技術実証】

・南西諸島地域における露地花き品目のオンデマンド出荷情報提供実証および高緯度地域における露地キク類機械化効率計画生産技術実証を行った。

④【ホームユース需要等に対応した良日持ち性ダリア品種エターニティシリーズの産地リレー生産および流通技術実証】を行った。

< 取組の成果 >

特異需要期の安定供給体制の構築に取り組み、キク類、ハボタン等で産地前処理、梱包資材、低温保管（7-14日）を組み合わせ、需要者ニーズにあった供給体制の構築に低温保管技術が資することを実証した。



ハボタン産地前処理の効果

花き卸売市場事業者の取引データと気象データの相関性を検証し、経験と勘に頼ることなく、データを活用した取引の4週間程度前から気象予報値を用いた出荷量の見込み情報（予測）を得ることが可能であることを示した。



入荷前4週間の気温と入荷量との関係

①【データ駆動型花き類効率計画生産技術実証】

・トルコギキョウについて、立枯性病害対策により2度切り栽培（12月と5月）の安定性が向上し、また収穫期予測による市場との事前協議が可能となった。

・カーネーション（切り花・ポット）について、DVRモデルの活用による需要期出荷を目指した能動的な温度管理による計画生産が可能となった。

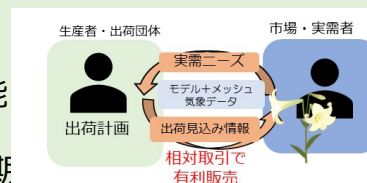
②【気候変動に対応したキク類効率計画生産技術実証】

・キク品種の開花生理の理解を基に、電照あるいはヒートポンプを活用した積極的な管理により、高温による影響を軽減でき、計画生産の精度向上が可能となった。

③【生育予測に基づく露地花き需給安定化技術実証】

・テッポウユリ収穫見込み情報と露地小ギク機械化効率計画生産の導入によって、収穫期見込み情報による市場との事前協議が可能となった。

④良日持ち性ダリア品種の導入、産地リレーにより、輸送問題への対応、長期出荷体系の構築、消費場面の拡大が可能となった。



アメダスデータを活用した
収穫日予測による市場への
出荷見込み情報に活用



低温貯蔵・輸送後8日目の切り花

< 今後の取組予定 >

- ・品目・地域ごとの検証を進め、実需者との連携強化を通じて低温保管技術を組み込んだ実証と普及活動に取り組む。
- ・気象予報を活用した出荷見込み数量の早期把握による市場担当者を介した事前の需給バランスの調整について、その有効性を引き継ぎ実証を通じて検証する。
- ・品目ごとの検証を進め、実証技術の普及活動に取り組むとともに、国産安心品質の切り花供給体制を構築を目指す。

花き生産供給力強化協議会（全国）

＜協議会構成団体＞

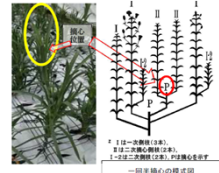
- 一般社団法人 日本花き卸売市場協会、一般社団法人 全国花卸協会
- 一般社団法人 J F T D、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
- 一般社団法人 日本花き生産協会

対象品目

カーネーション、
輪ぎく、スプレーマム、鉢物



生産者が投稿したSTORY記事

カーネーション実証試験
（1回半摘心の仕様）

＜取組内容＞

1. 花き流通の効率化等の取組

【ストックポイントを活用した流通の効率的な輸送体系等構築実証・検討】
物流の2024年度問題に対応すべく、「花き流通標準化ガイドライン」を踏まえた流通効率化に資する技術（台車やRFIDタグなど）を、ストックポイントを活用し実証を行うとともに、成果を取りまとめた報告書を作成。また、ガイドライン策定時に残課題とされた取引コードについて、活用・連携を検討。

【輪ぎくの流通効率化および低コスト・省力管理のための規格・適応品種実証】

栽培コスト・労力が大きい「神馬」に代わる業務需要に対応した品種を求め、次世代品種の候補となる低温開花性品種および芽無し系品種7品種で実証を行った。加えて、流通の効率化を図るため、統一規格出荷箱による輪ぎくへの可能性を流通業者とともに検討した。

2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

国産花きの消費拡大を目的として、花まるごとサイトを活用して生産者自らが品目の魅力等をPRした。サイトへのアクセス数を負いつつ、掲載者及びアクセス者へのアンケートを実施することで、効果的な国産花きのPR方法等を検証した。

3. 国と試験研究機関主導による全国レベルでの技術実証

【カーネーションの生産性向上のための生育環境制御技術の開発・実証】

①EOD-H：日没後昇温 ②EOD-C：日没後降温 ③LED：波長の影響調査…を行うことで、出荷時期の拡大、採花本数の増加及び切り花品質の向上を目指す。

【スプレーマムの立枯性病害に対する実証事業（半身萎凋病・萎凋病）】

近年、全国的に半身萎凋病（パーティシリウム属）および萎凋病（フザリウム属）が蔓延していることを受け、被害が多い高温時期に栽培される夏秋系主要品種の抵抗性の把握および抵抗性を持ち主要品種となり得る品種を探索した。

＜今後の取組予定＞

- ・ストックポイントの範囲を東北～大阪間に延伸し太平洋側および日本海側の2ルートでの輸送の検証に取り組み、柔軟で強靱なサプライチェーン構築につなげていく。
- ・輪ぎく実証は、生育の安定性等を確認後、推奨品種を示す。加えて、流通標準化ガイドラインにある台車に適した出荷箱の検討、台車輸送のシミュレーションに取り組む。
- ・カーネーション事業では、同一作型で共通品種、栽培時期を統一して生産性、切り花品質を比較するとともに気象変化による年次変動の影響を検証することを通じ、夏の高温化での栽培技術向上、切り花品質向上を目指す。

＜取組の成果＞

【ストックポイントを活用した流通の効率的な輸送体系等構築実証・検討】

ストックポイントを介することで集荷、幹線輸送、配送に運行を分割した物流を実証することができた。台車輸送と手荷役とを比較すると作業時間は88%削減された。RFIDラベルの使用によるソースマーキングについては現状と比較して新たな作業が発生するとの指摘があるものの物流全体を可視化し、迅速かつ正確な物流に資する技術であることが示された。そのためには、共通の取引コードを用いた情報の電子化が不可欠であることも確認された。



RFIDゲート検品

【輪ぎくの流通効率化および低コスト・省力管理のための規格・適応品種実証】

各産地の生産者試作、農研機構での調査および試作品種の日持ち調査を基に、暖房コストを25%削減できる温度帯での生育が可能で、側芽摘蕾作業の20%以上労力削減できる芽無し性質を有する品種として2品種を推奨品種候補とした。加えて、統一規格出荷箱による11規格パレット輸送シミュレーションは、普段利用している出荷箱より長く、詰め方に工夫が必要であった。統一箱の強度や市場での11パレットの扱いについて指摘があるものの、流通させることが出来た。



統一規格箱へのキクの詰め方

2023年4月～2024年3月11日までの総ユーザー数17,220（1か月あたり1,565。前年度は1か月あたり185。）。検索されやすいキーワードを盛り込んだ記事作成を行ったことで、新規のユーザーの獲得に成功した。SNSを活用し、当サイトをプラットフォームとすることでアクセス数も飛躍的に伸びた（R5年度総アクセス数48,059、R4年度8,827）ある出荷団体では、出荷箱のラベルに当サイトの自ページ二次元バーコードを貼り、詳細を見てもらう工夫をするなど活用方法も工夫次第で広がることが分かり、報告会などで活用方法も共有。



花まるごとサイトHP

【カーネーションの生産性向上のための生育環境制御技術の開発・実証】

①これまでの実証試験により、同一の暖房コストで約15%の採花本数増加が見込めることが明らかとなり、暖地の産地でEOD-Hが普及拡大した。②ヒートポンプによる冷房処理により、11月の切り花で下垂度が2°減少し、品質が向上した。③LED照射は、年内採花本数を6～7%増加、秋期の切り花下垂度を2～8°改善して品質向上した。また、暖地におけるEOD-CとLED照射の組み合わせは、6、7月及び9、10月に採花でき出荷時期が拡大する。このことから、カーネーションへのLED照射は、秋期の採花本数増加や高温期に発らい・開花する切り花の品質向上が期待できるなど汎用性の高い技術と考えられる。



LED照射による下垂度改善

【スプレーマムの立枯性病害に対する実証事業（半身萎凋病・萎凋病）】

和歌山県農業試験場で半身萎凋病に高い耐性のある3品種、群馬県農業技術センターで萎凋病に高い耐性のある5品種の夏秋系マム品種を見出した。あわせて各産地での試作実証により、品種特性として市場評価も高いと思われる品種を選定することが出来た。このことから、病害による採花できなかった施設内の採花率を80%以上に向上させることが可能となった。



夏秋系マム試作状況

国産花き需要拡大推進協議会（全国） <https://homeuse-hana.jp/>

協議会構成団体：（一社）日本花き生産協会、（一社）日本花き卸売市場協会、（一社）全国花卸協会、（一社）花の国日本協議会、MPSジャパン（株）、（一社）日本フローラルマーケティング協会、マーケティング調査会社・環境コンサルティング会社、女性のエンパワーメントとジェンダー平等推進団体・花き種苗会社・生産者・流通会社・販売会社・関連資材会社等 会員数 17会員、中央検討委員 8名、タスクメンバー 5タスク 38名

対象品目

切り花：ホームユース用途
ギフト用途、ブライダル用途
鉢物：ホームユース用途



公式サイト（活動等を紹介）

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

①花初心者向けホームユース需要拡大定着活動

花初心者ターゲットに、花のある暮らしのきっかけづくりと花店の利用体験創出を目的とし、花店主催で「#花のABCワークショップ」を開催。
再来店へ繋げるための手法の検討として、「フラワーパスポート」を活用した実証を行った。

②若年層の新たなフラワーギフト需要創出活動

若年層の花贈り体験の創出を目的とし、社会的関心が高く、かつ20代女性の認知関心が高い「国際女性デー」を通じて、異業種コラボで「幸せの黄色い花」のPRを行い、自分へのご褒美需要や花を通したコミュニケーションの創出、拡大に取り組んだ。

③インドアプランツ需要定着活動

コロナ禍で拡大したインドアグリーン需要の定着・さらなる拡大を目的とし、花店・園芸店を介して、消費者に室内植物を枯らさないためのノウハウを周知。
さらに、初心者向けQ&Aチャットサービスにより、初心者ユーザーの植物育成意欲を高め、インドアプランツの需要拡大に取り組んだ。

④アフターコロナの新たなブライダル切り花需要創出活動

花と写真をテーマにした新しいフォトWサービス「#花とフォト」のモニター撮影を通じて「新たなブライダル切り花需要創出」の実証、運営課題の改善、集客・提供体制の強化を行った。

⑤花とグリーンの効果効用の啓発と花店の環境アクション

急速に環境意識が高まる消費者、SDGsが浸透している次世代の消費者への需要に対応していくために、花き業界の現状を把握するための花店と花の流通における環境対策調査、市場流通におけるゴミの現状調査を行った。

①花初心者向けホームユース需要拡大定着活動

説明会及びマニュアル動画配信により#花のABCワークショップ実施花店舗26店、参加人数289名、フラワーパスポート交換率83.3%。ワークショップ体験直後のアンケートでは、回答者の96.3%が「花のある暮らし」への興味関心を示し、93.5%が今後の花購入意向を示した。2か月後のアンケートでは、回答者の77.8%がワークショップをきっかけに花を暮らしに取り入れ始めていることが分かった。

②若年層の新たなフラワーギフト需要創出活動

生産者・市場・花店で活躍する女性の花業界での仕事のやりがいや笑顔の 릴레이をおさめた動画を作成。
（<https://happywoman-flower.com/>）

パートナーメディアと協力した「幸せの黄色い花を贈ろう」というメッセージの拡散、異業種コラボを通じた「幸せの黄色い花」の露出機会の増加、花店における「国際女性デー」をテーマとしたディスプレイや黄色の花を中心としたアイテムの販売等に取り組んだことで、アンケートで「直近の国際女性デーに花を贈った」と回答した割合が1.3ポイント増加した。

③インドアプランツ需要定着活動

冊子配布は2店舗もサイトへのアクセス（DL）増加。アンバサダーショップ 121店舗の展開。
SNS質問の対応件数+30件→Q&Aチャットサポートデータに反映。Instagram フォロワー数2581人（R5年度+300人の増加）

④アフターコロナのブライダル切り花需要創出活動

協議会のメディア（公式サイト・Instagram）を介して、消費者向けモニター実証活動に取り組み、主に3点の成果を得た。①新プランの開発と投入、定期的なPRやキャンペーン情報の発信による集客強化。（モニター応募数：55組。インスタのフォロワー数：629アカウント）②パートナー別、ロケーション別マニュアル整備によるコンシェルジュデスクの業務効率化、各地域でサービス提供の核となる運営チームづくり、新規パートナー、ロケーション開拓。③公式サイト経由の問い合わせ・資料請求のコンバージョンUPのためのメニュー配置と導線の改修。

⑤花とグリーンの効果効用の啓発と花店の環境アクション

花業界および大手資材メーカーへのヒアリング実施、ワークショップ開催を通じて、“お客様の手元でごみになってしまうプラスチック”の課題を整理。花生産地→花市場→花店の流通過程で、ワンウェイのプラスチック資材が多く当事者の問題意識が高いことを顕在化。今後の改善に向けたチーム形成、専門家のサポートのもと、バックキャストで環境アクションを考え、実行していく【well-blooming project】を立ち上げ、花業界としての環境アクションと花の効果効用#ビタミンF活動のスタートを切った。

<https://homeuse-hana.jp/><https://homeuse-hana.jp/><https://greensnap.jp/page/66><https://hana-to-photos.com/><https://x.gd/7JEsV>

< 今後の取組予定 > ◆ 令和6年度事業活動 ①花の初心者向けホームユース需要拡大定着活動は、業界の新たな顧客を創出するため、花店の自発的な活動を促す活動として、業界内セミナーや有料#花のABCワークショップの業界内周知を中心に実施。 ②花のSDGs〜ウェルブルーム〜花の効果効用【#ビタミンF】啓発活動は、R5年度立ち上げた【well-blooming project】へ業界内新規参加者の拡大、花店中心に【花エコ】宣言や消費者に対して環境対策をPRするとともに、花の流通における環境対策を展開。 ③アフターコロナの新たなブライダル切り花需要創出活動は、【#花とフォト】の消費者への認知拡大、業界内外への啓発活動に取り組むとともに、各地域の集客、運営チームの活動を支援。また新たな花の需要拡大に向けてウェディングに限定しない花と写真を組み合わせた新しいサービスモデルの事例を研究。

国産花き生産流通強化推進協議会（全国）

協議会構成団体：北の純情倶楽部、J A 全農山形、静岡経済連、熊本経済連
J A 愛知みなみ、J A うご、東日本板橋花き、大田花き、FAJ、世田谷花き、
なにわ花いちば、J F 兵庫県生花、福岡花市場、木本生花、三和陸運、
日比谷花壇、パークコーポレーション、M P S ジャパン

対象品目

切り花：キク、トルコギキョウ、ダリア、リンドウ
カーネーション、バラ、スカビオサ、コデマリ
切り枝：ユーカリ、啓翁桜、イロハモミジ
鉢物・花壇苗：カーネーション、シクラメン、胡蝶蘭
エバーフレッシュ、ポインセチア、シクラメン

処理時期が日持ちに及ぼす影響
(13日目)

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1. 花き流通の効率化等の取組

【生産体制・流通の効率化の取組・実証】

- ①切り花物流の出荷データのデジタル化とデータの活用
産地での出荷データの入力システム構築、物流会社、卸売
市場への一元管理システム構築を目指す。
- ②SDG s 社会に対応した回収プラスチック箱の導入検討
出荷箱の標準化による物流効率の向上、品質劣化の低減、
台車・パレット物流による荷積卸時間の短縮を目指す。

【物流負荷低減につながる需要平準化に関する調査】

- ①消費者選好調査
購入状況、規格、価格感度、アップサイクル評価等を調査。
- ②花店利用者調査
小売の視点から物流負荷低減に貢献し得るニーズを探る。
花の規格、需要の集中・分散状況、顧客評価への影響を調
査。

【流通の効率化等に資する技術実証】

流通コスト低減につながる輸送技術、切り花、鉢花、観葉植物
および花壇苗の品質管理技術、LED光源を利用した生産・流
通技術および土壌病害の回避が可能な生産技術の実証

- ①回収プラスチック箱と給水資材を利用した輸送技術の実証
- ②収穫後生理特性の解明と品質保持技術の実証
- ③鉢物・花壇苗・観葉植物における品質管理技術の実証
- ④LED光源を利用した生産・品質保持技術の実証
- ⑤土壌病害回避生産技術の実証

【生産体制・流通の効率化の取組・実証】

- *産地での出荷データの入力、データの輸送会社、卸売市場での管理システム
を構築、実証テストを行い、実現可能なフローを確認。
- *標準のプラスチック箱は、重量が重いため手積みは困難。導入にあたっては、台
車・パレット輸送と組み合わせる必要がある。
- *レンタルパレット利用による実証テストで返却問題が解決できることを確認。荷
卸時間は10トン車で5～15分（手卸の場合40～60分）に時間短縮したが、
荷役作業の負荷低減と積載効率低下は課題。
- *軟弱箱・縦箱物流効率向上のため箱型パレット実証。

【物流負荷低減につながる需要平準化に関する調査】

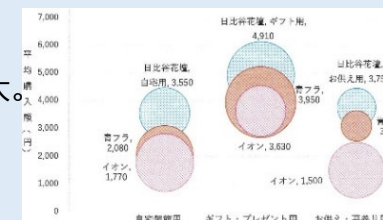
- *1年間に花を購入したと回答した割合は39%。植物は22%。
- *購入価格帯の上昇が続き、贈答用3～5千円、自宅用1500円以上が拡大。
- *購入経路は花屋が76%で主流。スーパーが伸びて40%（前年33%）。
- *自宅用では短茎志向が顕著。短茎は物流負荷低減、顧客ニーズに貢献。
- *客はコスパを求めるが一般的に過剰品質。目的、コスト、価値を考慮。
- *再生材、バイオマス素材、減農薬等環境配慮を評価する顧客層が存在。

【流通の効率化等に資する技術実証】

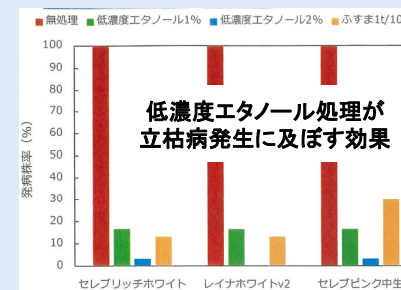
- *スマートフラワー（70cm）の日持ちは通常規格と差がない。
- *前処理剤は収穫後ただちに行う必要がある。
- *スカビオサ、ユーカリ、コデマリ、啓翁桜の品質保持方法確立。
- *ポットカーネーション、シクラメン等の品質保持技術確立。
- *LED照明が観葉植物の観賞評価・期間へ及ぼす影響がわかった。
- *多くの品目でピートモスの50%迄もみ殻に代替可能。
- *低濃度エタノール処理は立枯病発生抑制に有効。
- *隔離土耕栽培技術を確立。



10トン車で積卸時間が5～15分



1回当たり平均購入額

低濃度エタノール処理が
立枯病発生に及ぼす効果

< 今後の取組予定 >

産地から市場迄の出荷情報をAPIベースのクラウドサービスで産地、輸送会社、市場（加工場）でデータを共有、活用できるシステムを構築する。既存の市場も使用できるユニ
バーサルなシステムを構築する。また、台車・パレットの導入を推進するべく、台車・パレットの循環共同使用システムの構築を目指す。

フラワーデジタルマーケティング協議会

協議会構成団体: ユーザーライク株式会社, 京都生花株式会社, 三和陸運株式会社, 福岡県花卉農業組合, 株式会社ヤマキ花卉園, 株式会社コスモファーム野口, 株式会社F.U.KAGAWA, 静岡県経済農業協同組合連合会, 北空知広域農業協同組合連合会, 糸島農業協同組合, 全国農業協同組合連合会長野県本部, ザ・バック株式会社, 草月文化事業株式会社, 市村 一雄, 宮西 陽郎(Archi Beau)



< 取組内容 >

1. 花き流通の効率化等の取組

ホームユース規格に適した産地での梱包資材/梱包方法/利益性の最適化を実施した。短茎需要が増加傾向の中、輸送コストも上昇しており、従来の輸送形態では空気比率が大きく、1本あたり輸送単価が下がり切らない。当該規格でも再生産可能価格を担保出来るよう、生産者の原価低減を実施する。花き流通標準化検討会によるガイドライン案に準拠する形で新しい輸送箱の試作/現場検証を行い、当ガイドラインに既定の無い段ボールの詳細な仕様検討や原材料使用量の削減も行い、資材原価の大幅な削減を実施し、持続可能な資材原価及び輸送単価の実現への取組を行った。

2. ホームユース需要等の更なる拡大のための全国的な普及活動

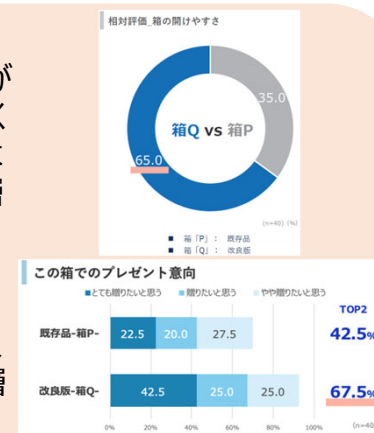
UX向上(体験価値向上)による花の消費機会創出及び購入金額の向上を目的に各種調査を実施した。花未購入層に関しては、ギフト選択肢として花以外のギフトとの比較競争に勝つ必要があり、価格許容度の上昇は、下位等級品から上位等級品への選択肢拡張にも寄与する。資材開発やコンテンツ開発によって、それぞれがどのようにUX向上に寄与するか、グループインタビュー等の手法で多数のサンプリングデータを収集し、未購入層活性化に花ギフトのUX向上が寄与可能か、花業界に対してのベストプラクティスを実証/普及していく。

< 取組の成果 >

輸送コストは、実施前基準値として4.52円/本(ヒアリング結果)、冷蔵大型トラック1台あたり16枚のT11パレットを積載可能と仮定すると、ホームユース規格40cm、50本/箱の輸送物の場合、本推奨仕様で小の箱を使用でき、パレタイズ後の高さを荷台高さ(2,300mmH)ギリギリまで積む場合、1パレットあたり8箱/段×16段/パレットとなり、6,400本/パレットとなる。仮にトラックが福岡から東京まで20万円/台の場合、積載率を80%とし、81,920本/台の場合でも、2.44円/本となり、46.02%削減可能が確認出来た。資材コストは、実施前基準値として2.82円/本(ヒアリング結果)、本推奨仕様で特大深の箱を使用でき、50本/束を4束、計200本の入数が実現できる。箱単価が135円/箱の場合、0.68円/本となり、75.88%削減可能が確認出来た。詳細は、報告書参照。



ギフトシーンでお花未購入層のうち、検討したことがある人は73.8%存在しており、ここに花市場拡張余地がある。ECでの阻害要因は、「サイズ感が分かりにくい 31.7%」「イメージと違う可能性がある 28.3%」「実物が届くまで見られない 27.5%」といった情報不足及びそれに伴う不安・懸念によるものである。課題払拭パターンで調査した結果、花ギフト未購入潜在層に対し、単価向上し、購入意向で最大6.4pt優位になった。箱の体験改善に関する調査結果から、花そのものの以外の資材体験も購入意向向上に寄与する。既販売業者は資材に関してECサイト上で強く訴求していないが、資材の改善とそれによって得られる体験の良さを提示することで購入を迷っている消費者が抱える不安の一つを取り除くことに繋がり、未購入層の更なる取り込みに繋がる可能性が有る。詳細は、報告書参照。



< 今後の取組予定 >

- 希望する生産者/生産団体に対して、T11パレットへ適合可能なガイドライン準拠の資材切替サポートを実施予定
- 資材切替時のコスト交渉も伴走支援し、輸送原価及び資材原価双方で原価削減を図る
- ギフト関連の調査結果も報告書と併せて公開し、必要に応じてベストプラクティスの共有や各種元データの共有を行う